

# 九州農政局管内の 有機農業取組事例

令和8年1月  
九州農政局

# も く じ

県名	所在地	番号	農場名	有機農産物
福岡県	広川町	No.1	古賀俊夫 氏	びわ、みかん
福岡県	桂川町	No.2	合鴨家族 古野農場	水稲、野菜
福岡県	うきは市	No.3	株式会社新川製茶	茶
福岡県	赤村	No.4	株式会社鳥越ネットワーク	水稲、トマト、ミニトマト、セルリー
福岡県	豊前市	No.5	株式会社エフワイアグリ	ベビーリーフ、ハウレンソウ
福岡県	宗像市	No.6	伊世いちご畑	いちご
福岡県	朝倉市	No.7	株式会社兵四郎ファーム	水稲
福岡県	久留米市	No.8	株式会社カラーリングファーム	ラディッシュ、ほうれん草、小松菜
佐賀県	みやき町	No.9	株式会社サガンベジ	葉物野菜
佐賀県	嬉野市	No.10	きたの茶園 北野秀一 氏	茶
佐賀県	鹿島市	No.11	佐藤農場株式会社	柑橘類、すもも
佐賀県	唐津市	No.12	ささき農園	自然薯、ごぼう、ゴーヤ、さといも
長崎県	雲仙市	No.13	農業生産法人吾妻旬菜株式会社	露地野菜
長崎県	雲仙市	No.14	ナチュラルファーマーミング合同会社	オリーブ
長崎県	南島原市	No.15	株式会社長有研	露地野菜
長崎県	南島原市	No.16	農事組合法人供給センター長崎	たまねぎ
長崎県	南島原市	No.17	農事組合法人ながさき南部生産組合	野菜
長崎県	佐々町	No.18	有限会社北村製茶	茶
長崎県	五島市	No.19	株式会社アグリ・コーポレーション	かんしょ、大麦、小麦
長崎県	五島市	No.20	農事組合法人ごとう茶生産組合	茶、レモングラス

# も く じ

県名	所在地	番号	農場名	有機農産物
熊本県	南阿蘇村	No.21	合同会社喜多いきいきくらぶ	水稲
熊本県	山都町	No.22	株式会社清和ミネラル会	ベビーリーフ
熊本県	山都町	No.23	Y A S K I F A R M	にんじん、小カブ、ピーマン、里芋、玉ねぎ
熊本県	宇城市	No.24	株式会社うきうき森田農場	水稲、野菜
熊本県	御船町	No.25	有限会社 くまもと有機の会	水稲、にんじん、ばれいしょ
熊本県	芦北町	No.26	有限会社鶴田有機農園	柑橘類
熊本県	宇城市	No.27	有限会社肥後あゆみの会	トマト、かぼちゃ、たまねぎ、柑橘等
熊本県	山都町	No.28	西山幸司 氏	にんじん、ばれいしょ、たまねぎ、キクイモ
熊本県	山鹿市	No.29	いとう農園	いちご
大分県	宇佐市	No.30	さとう有機農園株式会社	野菜
大分県	宇佐市	No.31	有限会社宇佐本百姓	水稲
大分県	臼杵市	No.32	株式会社ohana本舗	野菜
大分県	臼杵市	No.33	大分有機かぼす農園株式会社	かぼす
大分県	臼杵市	No.34	株式会社高橋製茶	茶
大分県	豊後大野市	No.35	ウジャマー農場	水稲、麦・大豆、野菜、かぼす
大分県	宇佐市	No.36	株式会社安心院オーガニックファーム	ベビーリーフ、パクチー、リーフレタス
大分県	九重町	No.37	ここのえ安達農園	ブルーベリー
大分県	佐伯市	No.38	豎山農園	水稲、野菜
大分県	臼杵市	No.39	槌本農園	なす、はくさい、ケール
大分県	豊後高田市	No.40	豊後高田オーガニックファーム	野菜

# も く じ

県名	所在地	番号	農場名	有機農産物
宮崎県	日之影町	No.41	一心園	茶
宮崎県	五ヶ瀬町	No.42	株式会社宮崎茶房	茶
宮崎県	綾町	No.43	有限会社松井農園	野菜
宮崎県	都城市	No.44	有限会社徳重紅梅園	梅加工品
宮崎県	えびの市	No.45	株式会社本坊農園	水稲、野菜
宮崎県	新富町	No.46	合同会社オーガニックファームZERO	米、にんじん
鹿児島県	霧島市	No.47	霧島製茶株式会社	茶
鹿児島県	鹿児島市	No.48	有限会社かごしま有機生産組合	野菜、果樹、茶
鹿児島県	鹿児島市	No.49	農業生産法人そのやま農園株式会社	野菜
鹿児島県	日置市	No.50	ジャラン農園	水稲、野菜、キウイフルーツ
鹿児島県	屋久島町	No.51	モッチョム農園	ばれいしょ、かんしょ、ウコン
鹿児島県	いちき串木野市	No.52	大久保農園	柑橘
鹿児島県	屋久島町	No.53	有限会社屋久島八万寿茶園	茶
鹿児島県	始良市	No.54	株式会社 わくわく園	桑
鹿児島県	喜界町	No.55	朝日酒造株式会社	サトウキビ、白ごま
鹿児島県	出水市	No.56	さわだ農園	水稲、麦、大豆、玉ねぎ

## <基本情報>

所在地：福岡県八女郡広川町

## <農場概要>

- びわ（ハウス）40a、みかん（露地）10aは全て有機JAS認証を取得
- 他に桃（ハウス、露地）、ぶどう（ハウス）、水稻を栽培（びわ、みかん以外は非有機）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 以前は、町内に4名のびわ農家がいたが離農等により減少し自分一人となった。  
生産量では他産地との競争に勝てないため、差別化が必要と判断し、食の安全安心に着目し有機栽培を開始。
- 平成17年にびわ、令和5年にみかんの有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 販売先の大半はJASだが、有機農産物取扱業者へも販売。  
有機農産物取扱業者への販売量が徐々に増えており、現在では3割近くを占めている。
- 「有機びわ」は、化粧箱（500g）とパック（250g）の2種類で販売。
- いわゆる規格外品は殆ど発生しないため、果実を使用した加工品はないが、葉を使用した「有機びわ茶」を有機加工JAS認定事業者に製造委託し、販売。
- 全て国内販売のみで輸出は行っていない。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

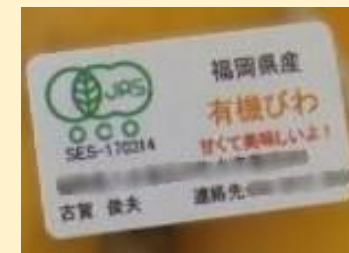
- **病害虫対策**  
害虫は、管理作業で圃場巡回する際に捕殺。
- **雑草対策**  
草刈り機による除草に加えて補助的に人手による除草。
- **土づくり**  
米ぬかに籾殻を混合した自家製有機堆肥による施肥。

## <苦労しているところ>

- 害虫は、捕殺で行っているため大変な手間が掛かっている状況。
- 除草作業は、乗用草刈り機と背負い式の草刈り機で行っているものの重労働である。

## <現場の課題>

- 今後も有機農業を継続していくが、有機JAS認証取得後の毎年の継続審査費用が負担となっているため、国で支援いただきたい。
- 消費者の認知度を高めるため小売店にオーガニック売場の設置を義務化することで、消費が増え、生産も増えるという好循環が生じるのではないかと。
- 害虫捕殺の手間や除草作業が重労働のため、面積の拡大が見込めない。



## <基本情報>

所在地：福岡県嘉穂郡桂川町

## <農場概要>

- 12.5ha (有機JAS認証未取得)
- 労働力7名 (古野氏の家族6名、従業員1名)
- 有機農業により水稲、各種野菜及び畜産を営む



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 学生時代に有吉佐和子著「複合汚染」を読み影響を受け、雑草防除と地力維持に関心を持ち、農薬不使用の有機農業を実践した。有機農業は環境に優しく、健康によい。家族が食べるために作ることが最大の目的であり、同じものを消費者に届けている。

## <販売について>

- 基本的に近隣の消費者へ年間契約の直接販売が多いが、そのほかにインターネット販売等も行っている。
- 農業は成長するとともに、維持することが大事であることから、変化に応じて様々なことに対応しながら、地元の人々に直接販売することを続けていきたい。



## <病虫害対策・除草対策・土づくり>

### ● 病虫害、除草対策

水稲については、1988年から開始した「合鴨農法」の体系化を実施することにより、害虫の駆除と除草を行っている。野菜栽培については、水田輪作による防虫、耐病性の強い品種の作付け、高畝栽培、排水対策を実施することにより病虫害対策を行っている。また、独自に開発した除草農機具（ホウキング）を使用し除草することで、除草時間の大幅な削減を実現している。

### ● 土づくり

自家製の堆肥（籾殻、鶏ふん、牛ふんを堆肥舎でかくはん・発酵）を使用することで土づくりを行っている（野菜畑については、10a当たり5tを投入）。このことにより、**慣行栽培と同程度の収量を確保**している。

## <苦労しているところ>

- 地球温暖化により、害虫や雑草が増加してしまい、野菜づくりに影響がでていること。

## <今後の対応>

- 地域の農業を引継ぐ者が少なく、農地の管理委託が増え、今後、自分の経営面積は増えると予想されるが、できる限り家族で有機農業及び地域農業を維持していきたい。

## <現場の課題>

- 地域の担い手確保と地域社会の維持。



【お問合せ先】TEL.0948-65-2018

ホームページ<http://aigamokazoku.com/index.html>

## <基本情報>

所在地：福岡県うきは市浮羽町

## <農場概要>

- 茶園場7ha、全て有機JAS認証を取得
- 常時雇用4名（生産2名、店舗2名）臨時雇用5名
- **平成12年有機JAS認証（農産物、加工食品）取得**



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和30年代に祖父が茶生産を開始。引き継いだ両親が農薬散布などの影響で体調不良となったことから、昭和48年に思い切って農薬を一切使用しない栽培方法に切り替えた。

## <販売について>

- 荒茶の2割が卸販売、残り8割は自社で商品化し、自社販売店、道の駅、百貨店、インターネット及びイベント等で販売。今年開業したワンビル（福岡市）内の店舗でも取り扱われるなど都市部からの引き合いが多く、販売額は順調に伸びている。
- 令和6年度の売上高は、法人化した**平成25年度の約1.8倍**。
- 19品種を栽培しているが、5品種はブレンドせずに「シングルオリジン」として販売。
- 平成28年から輸出にも取り組み開始。現在の輸出先はスイス、ドイツ、オーストラリア、台湾。

## <自社販売について>

- 平成7年に自社店舗をオープン。平成25年古民家を改装した現店舗に移転し、自社販売を行っている。近隣に建設された外資系ホテルの宿泊客が買い物に来るなど日本人だけではなく海外観光客の取り込みにも成功している。



地元の棚田をイメージした商品棚

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
昭和48年当時は、にんにくや木酢を害虫予防として散布していたが、風通しが良く、湿度も低めになる条件を活かして現在は何も行っていない。
- **雑草対策**  
春や秋は草刈り機などで刈り取っているが、夏場はつる性の雑草など、根や球根を1本1本手取りしている。
- **土づくり**  
堆肥に微生物を入れて発酵させる「ボカシ肥料」を手作業で施している。



圃場は標高400~500m

## <苦労しているところ>

- 夏場の猛暑の中での手作業による草取りが一番大変。また、近年は異常気象で12月まで草取りが必要だが、お客様に安心して購入して頂くためには避けて通れない。
- 単収は、慣行栽培の約半分、生葉で300kg~350kg程度。

## <今後の展開>

- 有機栽培の維持と品質保持に注力し、消費者の信頼を維持することが最も重要であり、無理な拡大よりも着実な運営を重視していきたい。

## <基本情報>

所在地：福岡県田川郡赤村

## <農場概要>

- 面積：2.6 ha (全て有機JAS認証)
- 従業員：25人 (役員を含む)
- 水稻及びトマト、ミニトマト、セルリー等 (ハウス栽培)
- 生産したトマトを原料に加工品を製造・販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 人間・環境に優しい農業の創造とこのような農業を広く社会にアピールし、農業の社会的役割や農業者の社会的地位の向上に貢献すること、地域の生産の核となり地域再生・地域雇用を生み出し地域のモデルとなることを目的として有機栽培を開始。

## <販売について>

- 販売する全商品が有機JAS認証品。生産したトマトを使用し加工品(ケチャップ等)の製造・販売も行っている。
- 有機JASの小分業者認証を受け、販売先からの要望に沿った形態で自社包装対応を行い、好評を得ている。
- 販売先はグリーンコープを中心に、イオングループ等約20社と直接取引(販売先への品数・ロットについては、連携を組む生産法人からの仕入れにより確保している)。
- 有機セルリーは、大手スーパーから直接取引のオファーが入るまでになっている。
- 経営管理ソフトを導入し、生産コスト等を管理することで、販売先との価格交渉を実施している。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
病害虫の対策としては、有機農産物にも使用可能なBT剤、土壌改良剤、天敵を使用。トマト等の受粉にはクロマルハナバチを活用。
- **雑草対策**  
施設内ではマルチシート、除草は機械と手作業。
- **土づくり**  
牛糞2：草8をベースに有機物や乳酸菌等を混合した堆肥を使用して土作り。5年程度で病気の減少と慣行栽培と同程度の収量達成。

## <苦労しているところ>

- 資材費、運送経費等の抑制。

## <現場の課題>

- 資材・燃料費、人件費、物流経費などの高騰への対応。
- 地域の耕作放棄地増加等の荒廃農地対策。

## <今後の対応>

- 生産技術体系を確立し、安定的な生産を確立するとともに、次世代へ引き継げる経営の確立。
- 生産規模を拡大し、収益の向上を目指す。

【お問合せ先】TEL.0947-62-3349

会社ホームページ<https://www.torigoe-network.com/>

## <基本情報>

所在地：福岡県豊前市

## <農場概要>

- 10ha（うち有機：6ha）
- 45名（正社員15名、パート30名）
- ベビーリーフ、ホウレンソウ（有機）  
アスパラガス（減農薬、減化学肥料）ほか



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 食の安全・安心は重要であり、消費者の方により良い国産農産物を提供したいという思いとともに、当初から栽培水準を高く持つことにより、付加価値と収益性の両立を図ることを目的として開始。
- **令和2年（2020年）に有機JAS認証を取得。**

## <経営について>

- 理念は、「未来に新しい種をまく」
- 経営ビジョンとして、最先端の農業経営を目指すことを会社設立時より目標としており、GLOBALG.A.P.も取得済みである。

## <販売について>

- ベビーリーフは、(株)果実堂を通じてスーパー等へ販売している。
- アスパラガス、ホウレンソウは、大手百貨店や量販店へ販売している。

【お問合せ先】TEL.0979-33-7885  
会社ホームページ <https://fyagri.jp/>

## <病害虫対策・除草対策>

- **病害虫対策**  
ハウスの外側には防虫シート、防虫ネットにより対策を施しているほか、病害虫が発生しそうな近隣の土地の草刈りを行うなどの事前の予防対策を行っている。
- **雑草対策**  
水管理の徹底が重要であり、どのタイミングでどのくらいの水分量が雑草の生育を抑えられるのか、**土壌分析を行いデータ化し灌水マニュアル**を作成している。

## <苦労しているところ>

- 畦畔などの雑草の管理 有機資材の選定。

## <今後の対応>

- 豊前エリアを中心に、20haの圃場面積を確保し、300棟のハウス建設が目標。



## <基本情報>

所在地：福岡県宗像市

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場90a（いちご「あまおう」）
- 従業員：12名（うち夫婦、通年雇用2名、期間雇用8名）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 2010年に就農した当初は、いちごの慣行栽培に取り組んでいたが、土壌分析を行った際にリン酸値が高かったため、これを機に化学肥料を減らして栽培することを突き詰めた結果、9年前に有機栽培へ移行。
- **令和2年（2020年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- ネット販売を中心に、空港、駅、百貨店及び近所の道の駅で販売。
- 中国の貿易会社を運営していた経験を活かし、可能な限り中間事業者を省き、直接現地（アジア圏）の業者と取引を行うことで、通常、朝収穫したものが現地の百貨店に届くまで3日を要するところ、翌日には届くことが強み。
- 宗像市のふるさと納税返礼品として登録。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

土着天敵（ギフアブラバチ等）、土着菌（放線菌等）により生態系バランスを保ち、害虫や病気が増えにくい状態を作る。



【病害虫を捕食します】

### ● 土づくり及び雑草対策

森林に囲まれた腐葉土による土着菌が自然と増える環境を活用し菌を増殖。毎年5月の収穫後にいちごの茎葉と雑草と一緒に緑肥としてすき込み、米ぬかを投入し、ぼかし肥料として使用。

## <苦労している（した）ところ>

- 蛾（ヨトウムシ）の幼虫をピンセットで捕ること。
- 「あまおう」の有機栽培は、殆ど前例が無かったため誰にも教わる事が出来ず、試行錯誤し手探りで、有機栽培を確立した。

## <今後の展開>

- 輸出はオーガニック先進国の米国や台湾にも拡大した。今後はこれらの国等の足場固めと、国内の販売も強化したい。



【受粉のお手伝いをします】

【お問合せ先】TEL. 090-9653-5300  
ホームページ：<https://isefields.work/index/>

## <基本情報>

所在地：福岡県朝倉市

## <農場概要>

- 2.8ha（有機JAS認証未取得）
- 常時雇用3人、臨時雇用1人
- 水稻（主食用米、米粉用米、酒米）



兵四郎ファーム



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 当時、（株）味の兵四郎※を経営していた社長が、平成16年に友人からもらった**有機栽培米の美味しさに感銘**を受けるとともに、**環境問題に取り組む必要性**を感じ、有機栽培を開始。
- 農地取得を機に、平成26年に（株）兵四郎ファームを設立。  
※（株）味の兵四郎は、あごだしを中心に素材と美味しさにこだわった商品の製造・販売を行う会社。

## <販売について>

- 料理・菓子等で幅広く利用できる米粉へ加工し、（株）味の兵四郎の直営店舗がある百貨店や同社のwebサイト等にて販売。
- 信頼する有機農業者から調達した米を「兵四郎米」のブランド名で販売。

## <米粉用米の品種「笑みたわわ」について>

- 健康志向の高まりや食生活の多様化によるグルテンフリーの需要を見込み、パン・菓子・料理用に特化した多収品種「笑みたわわ」を栽培。米粉100%で作るパンは、もちりふんわりとした食感で好評。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
塩水に浸して、種もみを入念に選別した後に、酵母菌を施用。
- **雑草対策**  
抑草対策として、代かきを丁寧に3回、収穫後から田植えまでに耕うんを4～5回以上実施。
- **土づくり**  
土壌分析・施肥設計に基づき、科学的にアミノ酸肥料やミネラルを供給。

## <苦労しているところ>

- 裏作を行わず、収穫後も土づくりを徹底して行うため、手間暇がかかること。

## <今後の展開>

- 自社でパンを製造・販売できるよう、パン工房を兼ねた直売所を建設するとともに有機農業の良さを発信できる取組みを実施。
- 輸出に挑戦し、精米直後の美味しさや米粉の製造時の美味しさを活かし、価値ある商品づくりを図りたい。



【お問合せ先】TEL. 0946-28-7587

ホームページ：<https://hyoshiro-farm.co.jp/>

## <基本情報>

所在地：福岡県久留米市

## <農場概要>

- 面積：5.3 ha（全ほ場有機栽培）
- 従業員：正社員4名、パート3名、技能実習生・特定技能実習生15名
- 栽培品目：ラディッシュ、ほうれん草、小松菜



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 慣行栽培で規模拡大を進める中、農薬を使用しても効果が出ない、病気の増加、発芽がそろわない等、収量低下に直面。
- 土壌の有機物不足、団粒構造ができていない点、生物の多様性が少ない点に気づき、関係者からの助言や書物等から土づくりの大切さを学び、2017年から有機栽培を開始。

## <販売について>

- JAを通じた市場出荷や小売店等との契約。
- 加工品の製造を始めた際に展示会に出展し、仲卸会社を紹介いただいたことでスムーズに販路拡大につながった。



## <経営面の工夫等について>

- 約90棟あるハウスや各ほ場の栽培から出荷までの過程を管理するため、より自社の作業体系に合うようにアプリを活用して独自のシステムを開発。
- ハウスの土壌水分管理について誰でも対応できるようにする等、作業の標準化や共有化を図る工夫を行っている。
- 2021年に有機JAS認証を取得。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策・雑草対策

窒素成分が多くなると害虫が寄ってきやすくなるため、そのコントロールを重視。毎作、自社で簡易的な土壌分析を実施し、窒素成分の確認を行い、年2回程度、分析機関でより詳しい土壌分析を実施し、施肥設計。やむを得ない場合は、有機JAS認証の規格を遵守した形で微生物農薬等を活用。4～10月頃には毎作、資材投入後、ビニールを被覆し、太陽熱を利用した高温処理を実施。

### ● 土づくり

ハウスでは、各品目を組み合わせ、約7作/年栽培し、油かすや堆肥を施用。露地では鶏糞を中心に施用し、各品目に加え、夏はソルゴーやヘアリーベッチ等の緑肥も栽培し、土づくりに活かす。



## <苦労しているところ>

- 水害、酷暑とそれによる害虫の増加。

## <今後の展開>

- 地域の資源を利用した自家製の植物性堆肥の製造にも取り組みたい。将来的には加工品の有機JAS認証も取得予定。



## <基本情報>

所在地：佐賀県みやき町

## <農場概要>

- 施設栽培：施設42棟 約1.2ha 葉物野菜18品目(ほうれん草、小松菜等)
- 露地栽培：15a 葉物野菜4品目(夏場のみ)
- 従業員9名(臨時雇用を含む。)



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- サラリーマン時代に長時間労働等により体調不良となった際に、食の大切さを痛感。有機農業に取り組もうと決意し、奈良県宇陀市の有機農家に飛び込み栽培技術を習得。
- 平成22年(2010年)に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 販売する野菜全てが有機JAS認証品。
- 一つのハウスの中で多品目を混作・ローテーション ⇒ 周年で品数を確保 ⇒ 付加価値を高め定額販売 ⇒ 安定収入を確保。
- 1パックに5種類のオーガニック野菜を入れたオリジナル商品等を販売し販路拡大。
- 2019年にGFP(農林水産物・食品輸出プロジェクト)に登録し、香港への輸出に取り組んでいる。
- 今年から地産地消の促進や環境に配慮した農産物の販売を進めるコープさがとの取り引きが始まったことで、販売量の増加が見込まれる。
- 過去、Amazonの野菜セット部門でベストセラー商品ランキング第1位を獲得。



【一つのハウス内で多品目栽培】



【お問合せ先】TEL.0942-89-1559

ホームページ <https://saganvege.com>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策  
有機JASで認められた農薬も使用しておらず、BLOF理論に基づく病害虫に強い野菜作りに取り組んでいる。
- 雑草対策  
は種前に2週間程度シートを被せ、土壌を高温殺菌。ハウス外の雑草対策として、羊を飼養している。
- 土づくり  
有機肥料は、おから、米ぬか、油粕、粃殻など植物由来の原料のみを使用した自家製。また、有機肥料及び廃菌床と剪定くずを粉碎したチップを原料とする植物性堆肥を混ぜた土づくりを行っている。



【植物性由来有機肥料】



【野菜の袋詰め作業】

## <苦労しているところ>

- 販路拡大、適正価格の設定、高温対策、安定供給が課題。
- 環境に配慮した農産物の生産に取り組む生産者や平坦部における農地の確保。

## <今後の展開>

- 新型コロナウイルス感染症等を契機に輸出量が減少する中、地産地消の促進や環境に配慮した農産物の販売促進を図る販売業者との取り引きの拡大に取り組み、さらに、学校給食での使用について、自治体や有機農業者等と連携し検討を進める。

## <基本情報>

所在地：佐賀県嬉野市嬉野町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場約4ha（茶）
- 蒸し製玉緑茶、煎茶、ほうじ茶、粉末緑茶、紅茶を使用した13商品を製造販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 当茶園は、約37年前、父が茶本来の味と茶の効用を追求し、当時では珍しかった有機栽培に転換。
- 面積を2.7ha（H14）から4ha（R7）へ拡大
- **平成18年（2006年）に有機JAS認証取得。**



## <販売について>

- 小売り販売で生産量の8割を販売。
- 蒸し製玉緑茶をはじめ、煎茶、粉末緑茶、ほうじ茶及び紅茶を製造販売。近年は、ボトルティー商品など開発。



## <嬉野茶のPR活動>

- 地元の茶農家や旅館、窯元からなる「嬉野茶時（うれしのちゃどき）」の活動に参加。茶畑に設置した茶空間にて、肥前吉田焼の茶器を用いて、自身が育てたお茶を、自らお客様に淹れてもてなす茶空間体験を実施。



## <病虫害対策・除草対策・土づくり>

### ● 病虫害対策

地域の野草（よもぎ・どくだみ・杉・松・こしょう）などを熟成させた薬液を使用。薬液は忌避効果が高く、害虫もほとんど殺さないため、地域の生態系への影響が少ない。

### ● 雑草対策

除草剤を使用せず、人力のみ。

### ● 土づくり

地域の副産物である水飴の絞りカス、米ぬか、炭などをブレンドし、好気性微生物や嫌気性微生物により発酵させた有機自家製肥料を使用。



## <苦労しているところ>

- 人力での除草作業。

## <今後の展開>

- 有機農業技術をさらに高め、収穫量の安定と品質向上を目指す。
- 多くの方にお茶を楽しんで頂き、地域の発展に結びつくような幅広い活動を行う。



## <基本情報>

所在地：佐賀県鹿島市

## <農場概要>

- 経営面積：26ha（約3haは改植後未収穫期間中）※全面積有機栽培
- 栽培品目：柑橘類（温州みかん、レモン、ポンカン等）すもも等
- 従業員11名(代表を含む。)



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 慣行栽培では、自身も含め篤農家ほど農薬散布が多く薬害と思われる病気や体調不良に見まわれる実態を目の当たりにし、農家自身が健康でなければならぬと考えたこと。
- 昭和63年に全面有機栽培に転換し、有機JAS制度が始まった平成13年（2001年）から有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 生果は国産オーガニック専門店、生協パルシステム等に販売している。有機の引き合いは強く、注文に応じきれないほどである。インターネットで、「鹿島みかん村」としても販売している。
- 生果のほか、ジュース、ドライフルーツ、ジェラート、ジャム等の加工・販売に加え、有機レモン生石鹸も開発・販売している。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

「有機」表示のできる農薬として、殺菌剤のイオウフロアブル及びICボルドー66D、殺虫剤のマシン油を使用。黒点病菌の発生源の枯死枝を適確に除去し、園外で処理。

### ● 雑草対策

近年の温暖化の影響で雑草の繁殖の勢いが激しくなった影響もあり、経営面積の約半分程度で乗用草刈機乗用モアーを利用。他にはラジコン草刈機を活用するが、法面や段差地等の斜面は安全面を考慮して人力で実施。

### ● 土づくり

発酵鶏糞・豚糞や発酵させたみかんの絞りかす、枯れ草等を利用した土づくりを実施。



## <現場の課題>

- 輸送コストの高騰、JAS認証更新費用等の経費が経営を圧迫している。
- 収穫期には作業員を増員する必要があるため、最近では隙間バイトアプリを活用して労働力の確保を図っているが、パート雇用者も高齢化して人員確保が難しくなっている。

## <今後の展望>

- 近年カメムシ被害が多くなり、一部の樹園地で早生みかん（10月後半から11月収穫）が2年連続で全滅した。来年からは、カメムシ被害の大きい樹園地は、販売先のエコ栽培基準に見合う薬剤を使用した特別栽培で対応したい。

【お問合せ先】TEL.0954-62-8334

会社ホームページ <https://mikan-satou.jp/>

## <基本情報>

所在地：佐賀県唐津市浜玉町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場約2.4ha（自然薯、ごぼう、ゴーヤ、さといも）
- 従業員：3名（本人、通年雇用2名。繁忙期は別途3名程度期間雇用）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 生き方を見つめ直そうと海外を旅した際、インドネシアの島で高潮被害を目の当たりにした。現地の方から地球温暖化の影響によるものだと知らされたことから、実家の田畑で環境に優しい農業を始める覚悟を決め、2002年に減農薬農業に取り組んでいた祖父に弟子入り。就農から5年程度は、化学農薬・化学肥料の使用を抑えた栽培を行い、その後、化学農薬・化学肥料不使用栽培を開始。
- 平成24年（2012年）に有機JAS認証を取得。

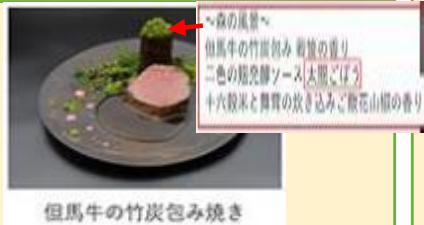
## <販売について>

- 販売先はミシュラン掲載店を中心に東京、名古屋、大阪、京都、福岡等のホテルや飲食店、百貨店、高級スーパー（納品先のミシュランの星の数の合計は100を超えています！）
- 1割は、ネットでの直接販売。

## <首脳夕食会への食材提供>

- 2019年G20大阪サミットの首脳夕食会の食材として、当園の「自然薯」、「太閤ごぼう※」が選ばれた。

※「唐津太閤ごぼう」で商標登録済  
（佐賀県唐津市で生産されるごぼう）



## <土づくり>

〔適地適菜〕 ささき農園の自然薯畑は天然の自然薯が自生している山を切り開き畑にしています。この山の豊かな自然を壊さないように土づくりには3年の月日をかけ草を育て、1年目、2年目と違う種類の草が育ちその土地が育てた、その土地が必要とする草をすき込むことで地力のバランスを整えていきます。

## <病害虫対策・除草対策>

マルチを利用することでアブラムシやスリップス類などの害虫や病気の発生を抑制するとともに、雑草防除も行っている。作物の前作に辛子菜を栽培し、全量鋤き込み、土壌炭素率を上げ微生物の活動を促すとともに、辛子菜の辛味成分による殺菌作用を利用し土壌病害や線虫を抑制。

## <苦労したところ>

就農時から主力商品として考えていた自然薯の有機栽培を始めてから7年近くは、保存中や定植後の腐敗が発生した。それを克服し栽培方法を確立することに苦労した。

## <今後の展開>

2026年2月に法人化を予定しており、新たに加工品にも取り組む計画である。多くの人に食べていただいて、健康になっていただけると幸いです。



【お問合せ先】 TEL. 090-5293-2502  
ホームページ：sasakinouen831.com/

# 有機農業の取組 No.13 農業生産法人 吾妻旬菜株式会社 令和7年10月現在

## <基本情報>

所在地：長崎県雲仙市

## <農場概要>

- 全て有機 J A S 認証ほ場 9 h a (露地野菜)
- 地元の運送会社と連携し、冷蔵トラックで輸送。高い鮮度を維持して有利販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 40年ほど前に3名で農薬不使用の栽培を始め、徐々に仲間が増えていき、有機農業研究会を発足。その後、更なる飛躍を目指すために、平成19年に「吾妻旬菜株式会社」として法人化。
- 平成13年(2001年)に有機 J A S 認証を取得。

## <販売について>

- 販売先は法人化前から取引がある関西方面及び九州方面。
- 地元の運送会社の冷蔵トラックで搬送することで、翌日には消費地に到着し、高い鮮度を維持した状態で有利に販売することが可能。
- 根菜類をある程度のロットにまとめて送ることで、運送経費を削減。

## <収量・品質について>

- 手間をかけても慣行栽培に比べ7~8割程度。
- 作物の生育に最も適した旬の時期に栽培して、品質の向上を図っている。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
周辺の雑草管理、高畝による排水対策、株間を広くし風通しを良くする、などにより病害虫の発生を抑制。
- **雑草対策**  
バーナーによる除草、管理機による除草、黒マルチによる雑草対策を実施。
- **土づくり**  
地元ブロイラー飼養農家から出る鶏糞に米ぬかを混ぜた堆肥の投入。豆科植物やソルゴーなどの緑肥の導入。

## <苦労しているところ>

- 労働力の不足。
- 近隣ほ場でのドローン防除等からのドリフト対策。

## <現場の課題>

- 輸送費が高騰することへの対応。

## <今後の対応>

- 地元での販売先の確保、消費者との交流。
- 地元住民への有機農業の理解促進。



【お問合せ先】 TEL.0957-38-6710

<基本情報> 所在地：長崎県雲仙市吾妻町

<農場概要> 有機 J A S 認証ほ場約3.0ha（オリーブ：850本）  
従業員：代表含む3名（別途、ほ場での除草作業や  
加工作業を福祉施設に依頼（農福連携））



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 農業関連各種機械装置の開発を行う会社を経営しており、小豆島のオリーブ産地から搾油機のメンテナンスを依頼され、産地を訪れるうちに栽培に興味を持ち、会社の農業部門としてオリーブ栽培を開始（2008年）。平成28年（2016年）、ナチュラルファーマーミング合同会社として分社化。海外では、オリーブ葉は医薬品として販売されていることから、健康を意識し当初から葉に特化した有機栽培を実践。
- **令和元年（2019年）有機 J A S 認証取得（農産物、加工品）。**



## <病害虫対策・除草対策>

- 毎日、園地を巡回し、剪定、虫とり、草刈りを実施。樹間が広く、除草は、乗用管理機が基本で樹木の周辺は手刈り。現在、リモコン草刈機の導入を検討。

## <土づくり>

- 牡蠣焼き小屋から分けてもらった牡蠣殻を、1年ねかせて散布。



## <苦労している（した）ところ>

- 農業参入する際に50 a以上の農地を必要としたが、農地が見つからず、耕作放棄地を借り受け。ほ場は、元々レンコン畑だったため、排水や土づくりに重機による客土造成を行った。
- 自社農園、加工場による安心安全、品質・衛生管理の徹底。

## <今後の展開>

- 当初、自社以外オリーブリーフ茶を製造・販売する所はなかったが、最近、他産地も参入。他産地のものには「苦くておいしくない」と評価されたものもあり、当社の販売にも影響を受けたため、自社基準を設け差別化している。
- 現在、海外展開に向けて準備中。
- 長崎雲仙を平和（有機・笑顔）のオリーブの町にする。
- 日本唯一の有機オリーブのプラットフォームとなる事を目指す。

## <販売について>

- 県内のテーマパーク、空港、駅、直売所等、地元での販売。その他、食品卸やネット通販。顧客拡大を図るために県内外の百貨店での催事出展。



## <取扱商品について>

- リーフ（葉）を製品化。  
【リーフティー（パック、パウダー）、ノンアルコール飲料、アイスクリームを主とし、副次的に生産したオリーブオイルも販売】

【お問合せ先】 TEL. 0957-51-4554

ホームページ：<https://unzen-naturalfarming.com>

## <基本情報>

所在地：長崎県南島原市

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場 約7ha（露地野菜）
- 露地野菜・米・柑橘等。自社農場及び正会員38名・協力会員6名による有機農業・特別栽培での生産、産地直送販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 消費者の安全・安心な食生活の実現、生産者自身の健康、自然を大切にし、農薬及び化学肥料の使用を極力減らすことを目的とした研究会を設立。その後、直販による販売活動を開始し、平成3年（1991年）に(株)長有研を設立。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証及びAFASシステム認証取得。**

## <販売について>

- 関東を中心に生協、有機農産物専門流通業者、自然食品店、消費者グループ等へ出荷。多様な出荷先の確保により経営面でのリスクを分散。
- 全取扱量の約9割が取引先との契約栽培で、その年の気象や生産コストと収量の実情を常に情報交換を行い、相場の影響を受けにくい。

## <収量・品質について>

- 化成肥料が投入出来ないため、全体的な収量は慣行栽培の7割程度。
- 会員間での栽培技術の統一、販売先のニーズに合った多様な品目、数量の確保が可能。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
たまねぎの苗床は、事前に太陽熱を利用した土壤消毒を実施。
- **雑草対策**  
ほ場周辺の除草はチップソーがメインであるが、イノシシ対策用のワイヤーメッシュ周辺は手作業。
- **土づくり**  
若手が中心となって作成した独自の設計書によるぼかし肥料（外注）を施用し、土壌分析・診断と組み合わせた適正施肥を実施。

## <苦勞しているところ>

- 労働力の不足。  
トラックドライバー不足による輸送費、資材等の経費の高騰。

## <現場の課題>

- 除草対策が一番の課題。人手不足・高齢化で規模拡大も難しい。

## <今後の対応>

- みどりの食料システム戦略の策定や南島原市オーガニックビレッジ宣言にともない、有機農業に対する消費者の理解を生産者と共に高め、安定供給可能な栽培を実践する。



【お問合せ先】TEL. 0957-86-5041

会社ホームページ <https://www.choyuken.com>

## <基本情報>

所在地：長崎県南島原市

## <農場概要>

- 経営面積：約40ha（うち有機JAS認証ほ場 約70a（たまねぎ））
- 露地野菜・米等の会員32名による有機農業・特別栽培での生産、産地直送販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 前身の任意組合を設立した昭和50年代から化学肥料、化学合成農薬に頼らない農業を実践。平成5年（1993年）農事組合法人供給センター長崎を設立。
- 平成22年（2010年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 九州・近畿・関東方面中心に生協への出荷が約7割を占める。
- 会員間での栽培技術を統一し、販売先のニーズに合った多様な品目の導入、数量の確保が可能。
- 契約栽培により再生産可能な価格設定、通いコンテナの利用等によるコスト削減も行っている。

## <収量・品質について>

- 有機栽培における長年の技術・経験を活かしながら、適性な品種選定を行い収量を向上。
- 使用する肥料を組織内で統一し、安定した品質を確保。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策  
たまねぎの苗床は、事前に太陽熱を利用した土壌消毒を実施。
- 雑草対策  
手作業による除草。
- 土づくり  
地域で発生する家畜糞尿等の資源を活用し、農家が堆肥を生産。春作収穫後、刈藁・刈草などの緑肥による土づくり。

## <苦労しているところ>

- 会員（農家）はもちろん、集荷場での労働力の確保。輸送費が高騰しているが、消費者の有機農業への理解も薄れ、価格への転嫁が難しい。

## <現場の課題>

- 農薬のドリフト防止のための緩衝帯設置、除草作業、周辺農家への有機農業に対する理解促進。輸送費高騰への対応、統一資材の一括購入によるコスト低減。

## <今後の対応>

- 生き物調査、生物多様性を発揮した有機農業の啓発活動の実施。販売先の開拓、高品質と輸送効率のためのロットの確保。



【お問合せ先】TEL. 0957-87-2926

会社ホームページ <http://www.jaganosato.jp/>